

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

三碓小学校 野外活動支援 活動報告書

社会科教育専修 2回生 竹島 直哉

1. 日時：2023年6月5日(水)15:00～20:30
2. 場所：生駒山麓公園野外活動センター
3. 参加者：国語教育専修 3回生 吉岡 優来
社会科教育専修 2回生 竹島 直哉
数学教育専修 2回生 奥村 壮之佑
英語教育専修 2回生 田中 天央衣、春本 杏
書道教育専修 2回生 間宮 千尋

4. 活動内容の概要

まず、飯盒炊飯の補助を行った。途中からの参加となったため、主に片づけや清掃の補助を行った。子どもたちの動きに合わせて主体的に活動することができた。

次に、入浴などの補助を行った。クラスごとの入浴であったため、大浴場まで引率した。また、入浴時間ではないクラスの児童に対し、部屋の片づけをしたり、布団を敷くのを手伝ったりする補助を行った。状況に応じて臨機応変に活動することができた。

最後に、キャンプファイヤーの支援を行った。大学生からも「落ちた落ちた」というスタuntsを行った。また、児童らのスタuntsの際は、安全確保を最優先に意識しつつゲームにも参加し、その場を盛り上げた。児童たちとの交流を深めるいい機会になった。

5. 参加学生の学び・感想

今回の野外活動支援を通して、児童の主体性や集団としてまとまる力をつけるためには、意識付けをすることが必要であると学んだ。100人を超える集団の中で、教師が前に立てば「静かにしよう」と児童からの声掛けがあった。また、部屋に入ってから活動ではリーダーが指示をだし、それを皆で聞いて実行することが当たり前のように出来ていた。それらはキャンプファイヤーでも生かされていた。そのような集団になるためには、日頃から児童自身に判断をさせ個人・集団としてすべき行動を考えさせることが重要ではないかと感じた。
(国語教育専修 3回生 吉岡 優来)

今回が初めての野活支援であったが、飯盒炊飯や入浴補助、キャンプファイヤーといった様々な経験をすることができた。飯盒炊飯や入浴補助では、児童の活動のサポートを行った。先生方の指示は非常に簡潔で的確なものであり、児童らはその指示やしおりを自ら確認し、行動をしていたところが印象的であった。また、キャンプファイヤーでは、児童が心を一にし、創り上げるという経験ができていると感じ、このような活動をする意義を見出すことができた。
(社会科教育専修 2回生 竹島 直哉)

今回の野外活動支援を通して学んだことは、思っているよりも指示が通らないということだ。児童が話を聞いていないわけではなく、同じ内容であっても言い方や表現の仕方によっては伝わらないことがある。そのため、相手の立場になって話し方などを考えて話すべきである。加えて、大丈夫だろうと感じたものほど伝わっていたため、児童に対し直接的に理解できたかどうかを聞かず、間接的に次は何をす

べきか聞く方がよいと思った。

(数学教育専修 2回生 奥村 壮之佑)

今回の野外活動支援では100名以上の児童をまとめて活動する必要があった。支援を終え振り返ってみると、とても円滑に行程が進んでいき、時間通りの活動が出来ていた。これは、児童達が持つ自主性や周りを見る目が優れていたからだと考える。今何をすべきなのか、しおりを自ら見て行動、そして声かけが出来ていた。今回の支援で、児童がこのような力をつけることのできる環境作りには何が必要か知った。それは、先生が1から10まで全てを指示するのではなく、児童に考えさせるという指導・指示である。教員を目指す身として学びの多い支援であった。(英語教育専修 2回生 田中 天央衣)

今回の野外活動支援では、児童の持つ自主性を多く感じ取ることができた。飯盒炊爨においては、児童一人ひとりがその時にすべきことを自分の頭で考えて行動していたため、次の活動へ滞りなく移行することができていた。また、キャンプファイヤーにおいて、1つの班のスタンプが終わり、円が乱れていることに気づいた児童の声かけに倣って全員で円を整えていく様子は、児童が常に周囲に注意を向けることができていたことの表れなのではないかと感じた。(英語教育専修 2回生 春本 杏)

今回の活動が初めての野外活動支援であった。教員、社会教育主事の演習として貴重な体験をすることが出来た。事前学習では、児童が理解しやすい言葉遣いを心がけたり、全体に声が届くように動きながら話したりなど意識することが多かったが、これからの授業実践に活かせることを体感することが出来た。5日の当日は、児童自身の動きに注意しながらアドバイスをしたり、指示を出したりすることが出来たと思う。実践的な活動に慣れてきたら、ファイヤキーパーに挑戦してみたい。

(書道教育専修 2回生 間宮 千尋)